

神事舞が奉納される上鴨川住吉神社の秋祭りは十月四日と五日の二日間ですが、祭祀に係る行事は年間を通して行われています。それらの行事の中でも、秋祭り、それに係る代表的なものをご紹介します。

四月三日 トウシバづくり

当屋の家でトウシバづくりが行われます。「當屋」とは、宮座における若い衆の役割の一つで、その年の祭りの世話役といえるでしょう。

「トウシバ」とは、約五十センチ四方の竹垣の中に芝を敷き、その中央に榊を刺し立てたものです。その芝の上にウチワリ(栗の木の板)を置き、お神酒とお洗米のカワラケを供えます。トウシバでこの場所を清め、當屋は六か月間の精進に入ります。



トウシバのあった場所にオハケを立てます。

十月三日 オハケ立て

秋祭りの宵宮の前日、トウシバを片付け、その場所にオハケを立てます。このオハケ立ては、宮座の「神主」と「禰宜」によって行われます。

「オハケ」は、真竹を十メートルで切り落とし、先端を尖らせ、藁包みと御幣を刺したものです。枝は上三本を残します。このオハケを目印に、當屋の家に神様が降りて来られるとされています。

十月四日 宵宮

夕方五時ごろになると若い衆が集まり太刀を先頭に神社に向かいます。途中、神社の前の川にあるシオカキ場で水を浴びて体を清めます。

【宮めぐり】

六時ごろ、衣装を着替えて準備を済ませた若い衆は、境内にあるお宮を一つひとつ回って拝んでいきます。この時、神様に息を吹きかけないよう口に神の葉をくわえます。拝み方も独特で、右手を胸の前にかざして軽く膝を折って一礼する「ハッコロ」という作法で行われます。

【若い衆の長床行事】

長床で「盃ごと」や、新しく加入した者のお披露目が行われます。宵宮の盃ごとには、村中から供えられた甘酒が用いられます。

【斎灯】

盃ごとが終わる頃、「當屋の手伝い」により斎灯が焚かれます。火柱は十メートル近くにも達し、火の粉が夜空に舞い上がります。

【御神楽】

斎灯が最も燃え盛るころ、割拝殿において、神主によって御神楽が舞われます。鈴を鳴らしながら身体を前後にくねらせ、足を大きく上げて向きを変えます。笛は若い衆ですが、太鼓や鼓、チヨボなどは清座です。盃



(右) 斎灯の向こうで太刀舞が演じられます。とても神秘的な光景です。

(下) 境内で斎灯が燃え盛ります。炎とともに祭りのボルテージも上がっています。



【宵宮の神事舞】

この給仕役は清座頭です。斎灯の勢いが弱まってくると、舞堂の前で舞が始まります。舞は太刀舞から始まり、獅子舞、田楽、イリ舞と続きます。この日は高足と翁舞は演じません。

【村受け・願濟】

願掛け成就のお礼のために、太刀舞からイリ舞までを奉納しなされます。時間がかかるためテンポを早めて行います。それでも願掛けの数が多いころは明け方近くまでかかったようです。

【神祭り】

片付けも済んで関係者一同が引き上げた後に神主、禰宜、當屋の三人のみで行います。一切が秘密で公開されていません。

「神事」のこれから

七百年以上にわたり受け継がれてきた上鴨川住吉神社の神事です。すべてが昔から変わっていないわけはありません。これまでもその時々課題に応じて、祭祀のやり方や宮座の構成などの細部が変更されてきました。

そして現在、宮座が直面している大きな課題が過疎化と少子化による後継者不足です。

昔の宮座は「二十四軒株」と呼ばれる決まった家筋の長男しか加入できませんでしたが、門戸が開かれ、上鴨川地区に住む氏子の長男であれば誰でも加入できるようになりました。それでも新規加入者を確保することは大変なのです。

新規加入者がなければ、一年ごとに変わっていくはずの祭りの役の引き継ぎができず、いつまでも若い衆から卒業することができません。また、行事の際に若い衆の人数が足りず、清座の者が若い衆の代わりを務めたりすることもあったようです。

また、宮座に加入していても、進学や就職で市外に出てしまえば、なかなか行事に参加できない若い衆も増えてきています。そのため、少しでも若い衆の負担を減らすための工夫もされるようになりまし

た。例えば、トウシバを作りオハケを立てるのは、當屋に当たっている若い衆の家の庭というのが本来ですが、當屋の負担を少しでも減らすために、数年前から公民館に立てるようになりまし

た。このように神事ならわしも社会の変化に応じて徐々にその姿を変えています。しかし、その本質は決して変わりません。今年十月四日と五日、数百年前と同じ場所で、同じ舞が奉納されます。ぜひ足を運んでみてください。その幻想的な光景は、見る人すべてを中世へと引き込んでくれることでしょう。

神事舞の数々

頭に鳥兜、顔にはリオンサンの鼻高面をかぶり、手には鉾を持ちます。笛や太鼓の音に合わせてゆっくりと力強く舞います。宵宮では若い衆の上から3番目、本宮では上から2番目の者が舞います。



太刀舞(リオンサンの舞)

田楽に出たものが1人ずつ単独で扇を持って舞います。締太鼓役とそれ以外では動きが異なります。



イリ舞(扇の舞)



獅子舞

非常に簡素なもので、境内を一回りするだけなので、20秒程度で終わります。演者は2人で先輩が前を務めます。



高足

若い衆の9人が、頭にガッソウと呼ばれる被りものをし、締太鼓、鼓、サザラ、チヨボではやしなごら左右に舞い踊ります。



田楽

本宮でのみ行われる演目で、いど、万歳楽、六ぶん、翁、宝物、冠者、父尉の7曲から構成されます。



翁舞

【神の相撲】 宮座に入れない次男や三男で組織する「祇園座」のメンバーによって行われる子供相撲です。

【翁舞】 翁舞は「いど」「万歳楽」「六ぶん」「翁」「宝物」「冠者」「父尉」の順で行われます。

この翁舞が行われている最中に、長床では「當渡し」という新島の當屋が交代する儀式が行われます。

【高足】 昨夜は演じなかつた高足が始まります。清座と若い衆の一人ずつが演じますが、思い通りに乗ることは難しいようです。

【長床行事】 午前十一時、宮座の全員が長床に集合し、盃ごとを行います。この日の盃ごとには、昨夜の神祭りのお神酒を用います。若い衆頭が横座に、これから神事を始める口上を述べ、横座もねぎらいの言葉をかけます。

【ホントウ】 正午、宵宮と同じく舞堂の前で、太刀舞が始まります。舞自体は昨夜と同じですが、本宮の太刀舞はこの祭りのハイライトとも言える中心的な演目なので、演者はもちろん、見守る者たちも緊張するようです。その後、昨夜と同様に、獅子舞、田楽、イリ舞いと続きます。

【餅まき】 儀式が終わると村人たちによって素早くのぼりや提灯が片付けられます。そして村の隣保長によって参拝者に餅がまかれます。これは祭りを盛り上げるために戦後しばらくして始まりました。

宮座の若い衆も参加し、これが終わると太刀を先頭に太鼓を打ちながら村へ帰っていきます。太鼓の音が聞こえ出すと村人たちは若い衆をねぎらうために集まり、リオンサンの太刀を頭上に戴きます。

【餅まき】 儀式が終わると村人たちによって素早くのぼりや提灯が片付けられます。そして村の隣保長によって参拝者に餅がまかれます。これは祭りを盛り上げるために戦後しばらくして始まりました。



リオンサンの太刀を頭に戴くと縁起が良い。



祭りの華、本宮の太刀舞